

令和3年度有田市文化賞受賞者が決定

令和3年度有田市文化賞受賞者が決定いたしましたので、お知らせします。

有田市文化賞は、文化の発展に貢献したと認められる個人または団体に対し、その功績をたたえ市長が表彰するもので、本市における地域文化の向上と振興を図ることを目的に平成5年度に制定、今回で29回目の表彰となります。

表彰式は次の日程で行います。

【有田市文化賞表彰式】

■日時／11月12日(金) 午前10時～

■場所／有田市文化福祉センター

■受賞者

文化功労賞 宮本 和明(みやもと かずあき)氏

文化奨励賞 脇中 須磨子(わきなか すまこ)氏
雅号:須万(すま)

文化奨励賞 松本 巳津子(まつもと みつこ)氏
芸名:花柳 紀巳咲(はなやぎ きみさき)

----- この件に関するお問い合わせ先 -----

〒649-0392 和歌山県有田市箕島50
有田市役所秘書広報課
担当:野井・宇恵
TEL:0737-22-3715 FAX:0737-83-2222
Email:hisho@city.arida.lg.jp

令和3年度

受賞者 (敬称略)

文化功労賞 宮本和明

文化奨励賞 脇中須磨子

文化奨励賞 松本巳津子

文化功労賞

宮本和明

- ※第25回（平成29年）有田市文化奨励賞
- ※有田川町絵本コンクール2019優秀賞
- ※平成23年講談社フェーマススクールズ
アートコンテスト創作絵本の部奨励賞
- ※平成27年講談社フェーマススクールズ
アートコンテスト絵本グランプリ
イラスト部門奨励賞



昭和39年、有田市に生まれる。現在、宮原町在住。

幼い頃から絵画を得意とし、心に火を灯すような絵本づくりをめざして創作活動に努めてこられた。水彩絵の具と色鉛筆などを画材とし、独特の透明感と優しい印象を与える絵画で、みかんや生きものをモチーフにした作品を多数制作されている。

文化奨励賞受賞後も積極的に著名な絵本作家の指導を受けるなど、厳しい自己研鑽に努めている。

令和元年には、全国各地から多数の応募がある「有田川町絵本コンクール2019」で、いのししの「イー」が有田郡市の各所を駆け抜けながら力強く生きるラブストーリー「ながみねのイー」が優秀賞を受賞。本年6月には、自身が学ぶ「絵話塾」ICHIGO会展（於 神戸ギャラリーヴィー）で新作約10点を発表されるなど、精力的に活動されている。

また、地域のイベントのポスター原画作成や、NPO法人わいがや娘の会の「有田市たからもんカルタ」など、地域の方からも多数の制作依頼があり、それらすべてに真摯に向き合い、快く引き受けられるなど、幅広く活躍されている。

現在は「鬼」をモチーフにした新境地の作品を手がけられているなど、絵本の制作を通じてこれからの有田市を担う子どもたちの心身の豊かな発達の醸成や、地域の文化振興に大きく貢献されている。

文化奨励賞

脇 中 須 磨 子

(雅号：須万)

※和歌山県水墨画協会 副会長

※華水会 理事



昭和21年、有田市に生まれる。現在、初島町浜在住。

花が好きなこともあり、「自分の好きな花を自分で描けるようになりたい」という気持ちで昭和57年に水墨画の世界に入る。水墨画家の小川^{かよ}華^は瓣^は画^が伯^{はく}に師事し、練習を重ねるうちに、水墨画の奥深さにのめりこみ、これまで研究、鍛錬を重ねられてきた。

平成8年には、県内でもっと水墨画の良さを広めたいという思いから、師とともに和歌山県水墨画協会の設立に尽力された。平成14年、15年には、県の要請により「文化交流使節団」として中国・山東画院との交流会や交流展に参加。平成26年には熊野古道の世界遺産登録10周年を記念して開催された「水墨画で描く熊野古道展」の実行委員を務めるなど、幅広く活動されてきた。

現在は師とともに設立した「華水会」のほか、市内4カ所で水墨画サークル「磨きの会」を開講。地域の方に水墨画に親しんでもらおうと熱心に指導され、年1回のグループ展や本市の文化祭などで生徒とともに自身の作品も披露されるなど精力的に活動されている。

「絵を磨くことによって人生を磨くこと・楽しく挑戦し続けること」を念頭に、“筆のご縁”を大切にしながら水墨画の魅力を広く伝え、本市文化の向上発展に長きにわたり貢献されている。

文化奨励賞

松本 巳津子

(芸名：花柳 紀巳咲)

※花柳流よしみ会 代表



昭和34年、有田市に生まれる。現在、星尾在住。

3歳から日本舞踊をはじめ、花柳 ^{よしと きみ} 芳登紀巳氏に師事。老人ホームや刑務所の慰問活動なども経験され、昭和52年に花柳流家元から紀巳咲の ^{きみさき} 苗字が許された。

その後も精力的に芸の道を磨き、昭和57年に師範となる。以来、子育てや家業であるみかん作りの手伝いに奮闘しながら、子どもから年配の方まで多くの弟子を育てられてきた。それぞれの能力にあわせて演目を選び振り付けを変えるなど、懇切丁寧な指導には定評があり、厳しい中にも和気あいあいとした雰囲気で、日本舞踊の魅力を幅広い世代に伝えることに尽力されている。

平成6年には、和歌山県で開催された世界リゾート博の前夜祭の劇中で、数百名の観客を前に舞踊を披露された。ほかにも、例年行っている一門「よしみ会」の発表会をはじめ、国民文化祭への出演など、市内外で数々のステージを経験されてきた。

また、長寿祭や「ねんりんピック紀の国わかやま2019民謡交流大会」でオープニングを飾った「有田みかん摘み唄」の振り付け指導など、幅広く活動されており、地域文化の振興に大いに尽力されている。

今年11月に行われる「紀の国わかやま文化祭2021川柳の祭典」では、オープニングを飾る祝舞を披露するなど、更なる活躍が期待されている。